

世田谷モデルでPCR検査増を

新型コロナウイルスの感染拡大は、東京都などで激しく広がっており、このまま感染の拡大を許せば、高齢者への感染が広がり、重症者が一気に広がる深刻な状況にあります。

こうした事態の下で必要なことは、まず感染力のある無症状者を把握し保護することです。そして、従来の「点と線」だけを追跡する「クラスター対策」だけでは対応できないことから、感染震源地(エピセンター)を明確にして、その地域で住民や働く人の全体を対象に網羅的な「面」での検査を行うことが必要です。

日本医師会の有識者会議も、「本感染症は無症状例が多く、隠れた地域内流行が存在する」として、「感染症対策だけでなく、経済を回す上からも、感染管理の必要な人たちが検査を受ける必要がある」と指摘しています。

東京都世田谷区では、PCR検査態勢を強化して検査数を一桁拡大し、だれでもいつでも何度でも検査できる「世田谷モデル」を検討しています。

国は、検査拡大で感染防止に成功しているアメリカのニューヨーク州などの事例を参考にして、偽陰性などの抑止論はやめて積極的な検査態勢を構築すべきです。

日本共産党上越市議員団ニュース
 No.670 2020年8月23日
 連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

「見込み違いだった」等と説明

佐渡汽船(株)幹部を参考人として招致



「あかね」初就航時の様子(2015年4月・直江津港)

直江津から佐渡の小木までの航路と、島内の両津までの陸路、そして両津から新潟までの航路は、国道350号線として重要な役割を果たしています。

そのうち、直江津小木航路には、2015年以来高速カーフェリー「あかね」が就航して、人・物・クルマの輸送を担っています。

ところが佐渡汽船(株)は、この直江津小木航路が慢性的な赤字を生んでいるとして、「あかね」を売却してジェットフォイル(人員輸送のみ)を導入するという計画を発表しました。

2015年の「あかね」の就航にあたっては、上越市もその建造費の一部約2億5千万円を貴重な市税から助成しています。それからわずか5年で売却するという提案

には、市当局をはじめ各方面から疑問や異論が出されています。

8月6日に開かれた市議会文教経済常任委員会で、佐渡汽船(株)から尾崎社長、渡辺取締役経営企画部長等を招き、提案にいたった経緯や姿勢を厳しく問う参考人質疑が行われました。

各議員から出された質問のうち、主なものを紹介します。

Q 乗客数などは、あかね導入の際との想定の違いが大きい。どう考えているのか。

A 高速運行による時間短縮、新幹線の開業などで増えるの見込みだが、効果の継続がなかった。乗客の減少傾向はあったが、カバーできると思っていた。

Q カタマラン(双胴船)は揺れが大きいということは、予想できなかったのか。

A トリマラン(三胴船)の方がゆれないことは認識していた。しかし、これまでの導入実績などを考えて最終的にカタマランになった。カタマランの揺れの性質は認識していたが、酔酔いが出るとは認識していなかった。

Q 修繕費が大幅に増えたことについての予測はどうであったか。

A 今なら、主機が2機あることによつて増額することがわかるが、当時の説明で示された費用は低かった。また、詳しい修繕費実績などの数値を入手できなかった。

Q ジェットフォイル導入でも赤字の見込みであるが、その解消についてどう考えているのか。

A 乗客の増加しか解消の手はないので、いろいろお願いしたい。佐渡の世界遺産登録や新幹線の延伸などにも期待している。

最後に、進行役を務めた上野公悦委員長が、「燃料費や修繕費の増額など初めて聞くことが多い。この間の経緯については、『思っていないかった』等とは言わずに、納得できるようにしてほしい。そのため、再度検証して、しっかりと説明すべきだ」と鋭く指摘しました。

また、「貨物やクルマが運べなくなると、直江津小木航路の観光戦略は根本が崩れる。それをどう補うのか」「この航路は国道であることから、国に抜本的な支援を求めざるべきであるが、その姿勢を示してほしい」「あかねの導入にあたって、当時、県は直前になって支援方法を変更した。その責任が県にもあるが、会社としての県への姿勢も問われている」と重ねて指摘しました。

この問題は、佐渡汽船(株)だけで解決できる問題ではありません。航路維持には行政にも責任があるだけに、会社だけの判断にしない取組が求められています。

なお、直江津小木航路は冬期間運休していますが、その間、「あかね」はドック入りするフェリーの代替として新潟両津航路に就航しています。この「あかね」が売却されると、冬期間は新潟両津航路も1隻体制となり、その1隻が故障した場合は佐渡が文字通り孤島となってしまうかねないとの指摘もあります。